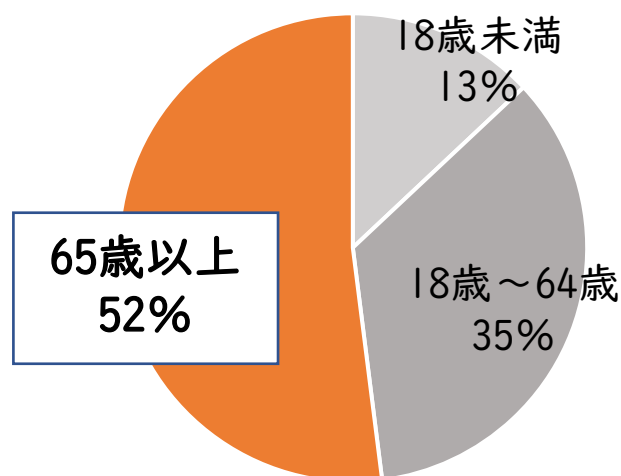


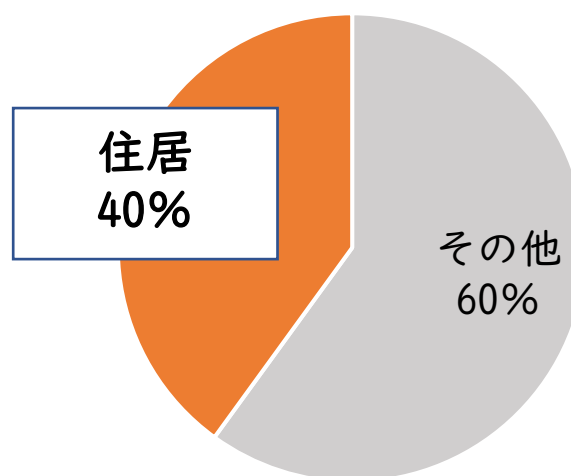
熱中症の季節です

熱中症における救急搬送数の特徴として、**高齢者**に多く**住居**で発生することが多い傾向があります。室内でもこまめに**水分補給**し、我慢せずに**冷房**を利用しましょう。

救急搬送数（年齢別）



救急搬送数（発生場所別）



（出典1をもとに当院が作成）

このような症状があれば

軽症

- 意識がはっきりしている
- 手足がしびれる
- めまい、立ちくらみがある
- 筋肉のこむら返りがある



涼しい場所に移動し、水分・塩分を補給しましょう（良くならなければ医療機関へ）

中等症

- 吐き気がする・吐く
- 頭痛がある
- 体がだるい
- 意識がなんとなくおかしい



速やかに医療機関を受診しましょう

重症

- 意識がない
- 呼びかけへの返事がおかしい
- 体がひきつる
- まっすぐ歩けない
- 体が熱い



救急車を呼び、到着まで積極的に冷やしましょう（わき、首、足の付け根など）

■ 出典

- 消防庁. 令和3年（5月～9月）の熱中症による救急搬送状況. 令和3年10月29日.
- 環境省. 熱中症環境保健マニュアル2022.

（出典2をもとに当院が作成）